

(ひとひとワイド) 木村侑平さん 23歳 ホーバークラフト事業立ち上げ広島／広島県

2025/09/08 朝日新聞 朝刊 23ページ 928文字

■水都ワクワク構想、浮上中

空気を噴出して浮かぶ船、ホーバークラフト。原爆ドーム前の川を駆け、広島のまちを水上交通でつなぐ――。

そんな未来を描いて、大学卒業直前の3月、株式会社「水都広島」を立ち上げた。資本金は1万円。オフィスは自宅マンションのリビング。会社の売り上げはまだなく、スマホの営業バイトなどで生活費を賄う。

「社会は甘くないけど不安もない。今、どうしてもやりたいことなんで」

高校時代までは航空分野のエンジニアにあこがれた。ただ、「技術も大事だが、社会のシステムをつくりたい」と思うように。社会課題を解決する人材育成をうたって4年前に開校した県立叡啓（えいけい）大に入学した。

大学のある広島市に移り住んで、一つの疑問が浮かんできた。市は転出者が転入者を上回る「転出超過」が課題だ。商業施設など都市機能がそろい、自然も豊かなのに、何が足りないのか。

考えるうちに、楽しさやワクワク感という言葉に行き着いた。なかでも、広島市の特徴である川を生かした街づくりに目を付けた。

河口近くは干満の差が大きく、干潮時は水深が1メートルを切るため、船は運航できない。「時間を気にせず、動かす手段はないか」。思いついたのが水面を浮くホーバークラフトだった。

事業化をめざして、資金調達の方法や収益の見通しなどをまとめた計画書をつくり、大学の友人だった府川凜平さん（22）と起業した。

ただ、国内にホーバークラフトの造船会社が見つからず、海外に問い合わせることに。資金集めで実施したクラウドファンディングは予定額に到達せず、1円も得られなかった。

それでも、8月に新たな仕事が決まった。サーフボードを立ちこぎで進むSUPの体験ツアーを補助するもので、会社として初めての受注だ。「本業はまだはるか先。色んな仕事を積み重ねて、信用を広げていきたい」。一步一步、夢を追いかける。（山中由睦）

*

山口県岩国市生まれ。幼いころの夢はロケット開発者。米フロリダ州のケネディ宇宙センターを訪れ、航空分野に興味を抱いた。起業すると決めた際、両親からは「とことん好きなことをやればいい」と背中を押されたという。

【写真説明】

ホーバークラフトの運航イメージ＝水都広島提供

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.